

YNU 経済学部 教育後援会

[特集]

就職活動体験記



2024 February

特別理事（経済学部長）

奥村 綱雄



昨年、経済学部は、その前身である横浜高等商業学校が創設されてから、100周年を迎えました。今年、横浜国立大学は創基150周年、開学75周年を迎えます。

経済学部は、その伝統を受け継ぎ、さらに最近では「データサイエンスを用いて、グローバルな経済や社会の諸問題に積極的に取り組んでいく人材の育成」に力を入れております。そのために、3つのプログラムを実施しています。

第1に、2021年度から、経済学をベースとしたデータサイエンス能力を身につける「DSEPプログラム」と、法学・政治学をベースに現代社会の課題を解決する能力を身につける「LBEEPプログラム」という新しい教育プログラムを開始しました。第2に、2022年度から、一般選抜入試で入学した学生も、勉学の意欲・やる気があれば、申請により、通常より先取りで学習することができる「Econ-Routeプログラム」を開始しました。これらのプログラムでは、早期の大学院進学を選択することができ、計5年間で学士号と修士号の両方を取得することができます。第3に、世界中の協定大学に留学したり、英語討論会に参加して、高い英語運用能力を身につけ、グローバル・ビジネスにおいて活躍できる国際力を身に着ける「GBEEPプログラム」も継続して行っております。

私どもは、これからも、優秀で有為な学生を育成することに取り組んでまいります。教育後援会の趣旨である、保護者の皆様と経済学部との意見交換を進めて経済学部生への支援活動にご賛同いただき、より多くの保護者の皆様が教育後援会に参加していただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

会長 岡崎 綾子

設立から20年を迎えたYNU経済学部教育後援会は、学生の福利厚生、就職活動、国際交流等の支援ならびに奨学援助を目的に、経済学部と保護者間の情報・意見交換を基に学生支援を行っております。

今年度は、留学やキャリアアップ教育の支援、災害時奨学援助などの従来への支援に加えて、新たに横浜経済学会「本行賞」受賞者への賞金支給を計画しております。また、コロナ禍を経て、学生の要望も変化してきておりますことから、中止となった卒業祝賀会の開催援助に代わるものとして、学生の意見を取り入れながら、大学生協と連携して卒業記念品の製作を進めているところです。

冒頭でご紹介させていただきましたとおり、保護者主体の組織である当会の活動は、保護者の皆様からのご支援で成り立っております。今後も経済学部の先生方と意見交換及び協議をしながら、支援活動の更なる充実を図りたいと存じますので、保護者の皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

就職活動体験記

地方公務員になる

経済学部 4年 Sくん

私は、来年の4月から出身地に戻り、そこの県庁の職員として社会人生活を始めます。様々な進路、就職先がある中で私がなぜ地方公務員を選んだのか、そして就職活動の際に考えていたことを記します。まず、私が公務員になろうと思った理由を2つあげます。1つ目は、利益を追求するのではなく地域のために、住民の支えになる仕事があったからです。民間企業も視野に入れたことはありましたが、営業ノルマがあったり会社の売り上げのために身を粉にして働いたり、というのが私の性格に合っていないと考えました。公務員であれば、道路や施設などの物理的な設備の整備や、ソフト面では法整備などを通して、生活基盤を安定させたり市民生活の支えになる仕事があったりと、利益ではなく市民、県民の安心した暮らしのために働くことができると考えました。そして2つ目は、転勤を望まないということでした。これは、就職活動において、バランスを考える話に繋がります。就職活動において、どこに重心を置くかが非常に大切です。バランスを考えないといけない項目が4つあります。それは、給与、想定勤務時間、勤務地、業種(仕事内容)です。稼ぎたいのか、早く家に帰り自分の時間を確保したいのか、自分が好きな仕事をしたいのか、これのどこに重点おくかが非常に重要です。私は、仕事でお金を稼ぐことが人生の目標ではなく、将来の家族や子どもと時間をたくさん過ごすことが一番の目標です。そのため、単身赴任や海外勤務があり得る企業はすぐに候補から外れました。就職先を探すときには、自分の欲しい給与と自分の時間と人生を仕事にどこまで捧げることができるか、という観点で条件を見ておくことをおすすめします。

そして、公務員になるためには公務員試験を突破しなければなりません。地方公務員試験は、早くて4年生の4月下旬からはじまり、筆記試験と論文試験や性格検査、面接や集団討論試験を合わせて3~4つの試験を行い、合格通知が出るまで1つの自治体で2.5ヶ月から3ヶ月ほどかかります。試験の準備は1年をかけることが多いと思います。私は大学生協が開催している公務員試験対策講座を受講しました。3年生の5月から始まり、1年間勉強が続きます。相当の精神力が必要な物でした。膨大な量がありますが、たとえ分からなくても、理解が追いついて無くてもとりあえず進めることも大切だと思います。あるとき一気に理解が進むことがあります。1年以上続く試験を乗り越えるには、揺るがない志望動機が必要です。これはもちろん民間企業を志望する就活生にも同じことが言えます。ですが、ときには疲れてしまうこともあります。そのときには息抜きも必要です。私は、アルバイト先で同僚と話したり一人でサイクリングに行って身体を動かしたりすることによってリフレッシュをしていました。就職活動全般に言えることですが、一人で乗り越えるのは大変です。私は大学の就職支援課にも複数回お世話になりましたし、講座の担当者の方や講師の方にもいろいろなことを教わりました。また、一人暮らしではありますが、実家に帰った際には家族にも助けられました。就活は情報戦でもあるので、自分が所属するコミュニティでいろいろな話をしてください。自分では気がつけなかった大事でお得な情報に巡り会うことがあります。自分一人では無く、友達と切磋琢磨して自分の一番行きたい志望先をつかみ取りましょう。この文があなたの就職活動において少しでも役に立てば幸いです。

将来を見据えた大学生生活 ～公認会計士を目指して～

経済学部 4年 Sくん

現在大学4年生の私は周りが早々に就職の内定をもらっていくなか、11月末ようやく内定をもらえました。私が選んだ道は公認会計士です。ここでは、私が公認会計士試験に合格して、就職が決まるまでの大学生生活について記していきたいと思います。

まず前提として、公認会計士試験について軽く説明します。公認会計士試験は、半年に1回行われる短答式試験に合格した後、年に1回ある論文式試験に合格しなければなりません。論文式試験は、1度目で不合格でも3度目までは短答式試験が免除され、論文式試験のみ受験することができます。大学生のうち合格する人が多く、働きながら勉強する社会人受験生より短く大体2年間の勉強で合格します。11月に論文式試験の合格発表があり、合格者のほとんどが発表後1週間ほどで就職活動を行い、監査法人の面接を受けて内定をもらいます。

私が公認会計士を知ったのは大学に入学した直後でした。在学中に新たな目標を掲げたいと思っていたときに、私が経済学部だったこともあり、父から公認会計士を勧められました。公認会計士の勉強は簿記から始まるのですが、入学直後にちょうど大学から簿記3級の無料講座の案内が届き、とりあえずやってみようと思い簿記の勉強を始めました。勉強と並行して公認会計士について調べていく中で、将来の選択肢の幅が広く、資格という強みがあるうえに高収入が得られることに魅力を感じ、公認会計士を目指すことを決意しました。

簿記2級までの勉強を終わらせ、大学1年の秋に予備校の公認会計士講座を申し込みました。コロナウイルスのため半年遅れで横浜に来て一人暮らしを始めたタイミングだったため、大学1年の間は新しくできた友人と遊びに出かけることが多く、カリキュラムから遅れをとってしまいました。危機感を抱き、大学2年になってから本腰を入れて勉強を始めました。1、2年の間は授業が多く大変ですが、長期休暇を利用してたくさん勉強したり細かく計画を立てたりすることで両立することができました。

また、私は体育会の部活動にも所属していたためその両立も大変でしたが、当時の主将が柔軟に対応してくださり、参加頻度を私に委ねてくださったため、試験前は休ませていただけました。結果としては12月の短答は不合格で3年の5月の短答に合格し、8月の論文は不合格でしたが4年の論文でなんとか合格することができました。

公認会計士を目指すことは簡単なことではありません。周りがサークルや旅行で大学生生活を充実させていてうらやましく思うこともあるかもしれませんが、一方会計士受験生は、1日中勉強をしたり模試を受けに行ったりするという日々です。しかし、私も大学1年の間や論文式試験が終わってからは遊ぶことができましたし、大学3年で合格すれば1年以上大学生活を楽しむことができます。周りの遊んでいる人たちも、3、4年時には就活でたくさん苦労していると思います。周囲もどこかで頑張っているのでも、大学で資格を取ることが特別ハードルの高いことではないと思います。途中で挫折して就活に切り替えても、それまでに勉強したことは無駄にはなりませんし、例えば簿記の知識は就活では強みになります。もちろん合格すれば将来のための大きな武器となります。資格に限らずとも、将来のために大学生のうちに関心を持って勉強することが大切です。



就職活動 ～自分を大切にするために～

経済学部 4年 Hさん

私は4年生の5月に金融業界から内定をいただき、就職活動を終了しました。夏のインターンから本選考まで紆余曲折があった就職活動を振り返っていきたくと思います。私の体験記が、少しでもこれから就職活動をされる学生の皆さんやお子様を支える保護者の皆様のお役に立てれば幸いです。

私自身、絶対にいきたい業界や企業は決まっていなかったため、夏・冬のインターンは志望業界を絞らずに様々なところに応募しました。業界を絞らずに受けたメリットは大きかったと思います。就活生用のアプリでその業界や企業を目指していた人がどのような志望動機を持っていたのか、何を成し遂げたいと考えているのかを知ることで、自分の携わりたい仕事や成し遂げたいことが徐々に明確になっていったのを覚えています。

インターンで様々な業界を応募したのは良い選択でしたが、エントリーシートや面接で悉く落とされました。エントリーシートや適性検査の期限の管理を怠り、クオリティが満足するものでなかったり、面接で受け答えがうまくいかず面接自体が怖くなり、何度も選考を辞退するようなこともありました。その原因は、周りに頼らなかったことだと今でははっきりわかります。正直なところ、就職活動においてよく言われる先輩や友人を頼る方がよいというアドバイスを、面倒だし何とかなるだろうという理由で無視していました。その結果、逃げる自分に対して自己嫌悪に陥り精神的に追い込まれていました。

内定がないまま本選考の時期である3月に入り、ようやく周りの人に頼るようになりました。志望する業界に内定を持っていた4年生の先輩に1週間に2～3回、模擬面接を行ってもらいました。志望動機、ガクチカ（学生時代力を入れたこと）の深堀や、詰めの甘さの指摘を行ってもらうことで、最初は言葉に詰まり支離滅裂なことを発言していた練習でも、最終的にはどのような質問がきても毅然と返答することができるようになりました。それと共に、失った自分への自信が戻ってきました。深夜にも関わらず面接練習に付き合ってくれた両親や友人には感謝してもしきれません。

就職活動を通してぶつかる壁は人それぞれだと思いますが、自分一人で抱え込まずに、誰でもいいので相談してみてください。同じように悩みを抱える同学年の友人、サポートしてくれる教授や両親、OG・OB誰でも構いません。周りの人と比べ焦る気持ちが生まれるかもしれませんが、自分のペースや目標を見失わないようにしてください。

そして、自分の行動を自分で肯定してあげてください。時には逃げてでも大丈夫です。それも自分の心を守るための大切な選択だと思います。明確なゴールの見えない就職活動の中で、学生の皆さんが笑顔で過ごせる時間が多くなることを心からお祈り申し上げます。



保 護者理事に聞く

経済学部キャリア教育推進委員 中村 良夫

教育後援会の理事といってもなかなかその活動状況は会員の皆様に伝わっていないことが多いかもしれません。そこで今回は経済学部の担当教員である私から、保護者理事の皆さんに、実際にやってみてどうかという感想などをざっくばらんに回答していただきました。

Q 理事になってみようと思ったきっかけは何がありましたか？

- A
- ・子どもが選んだ大学に関わりたと思ったからです。また、自分自身の新しい出会いも期待しました。
 - ・大学との繋がりがあった方が子供と色々話出来たと思ったから。
 - ・小学校等の様に頻繁に活動はないだろうと思いつくのであれば負担にはなることはないと思ったから。
(上の子の学校では親は学費を払っただけで全く様子がわからなかった)
 - ・コロナ禍で入学式は学生本人のみで、後援会説明会等がなく、担当の先生よりお電話をいただいたことがきっかけです。住まいが比較的大学に近い保護者からお電話をいただいたと思いますが、コロナ禍で色々分からないことも多く、せっかくお声がけいただいこともありやってみようかと思いました。
 - ・息子がお世話になっている大学で、何かお役にたちたかったからです。

Q 実際にやってみて、たいへんだったことやよかったことなどありましたか？

- A
- ・不慣れなこともありましたが、大学の先生や職員の方が丁寧に教えてくださったので困ることはありませんでした。むしろ、先生方や理事の方との活動は新鮮でした。子供が在学中の今しかできないことに取り組めたことがよかったですと思います。
 - ・いいえ。他の保護者の方とお知り合いになれて良かったです。
 - ・大変だったことは有りません。強いて言えばコロナ禍での会議の時に zoom がちゃんと繋がるか、ドキドキしたくらいです。
 - ・今年は会長が広島在住、副会長が大阪在住ということで、保護者が役員を引き受ける上で大学周辺に住んでいなくても出来るという前例は作れたなと思っています。
 - ・入学後まだコロナ禍で、理事会もオンラインであったりしたこともあり、対面の役員会も一度しか参加したことがなく、特に大変と感じたことはありません。
 - ・なかなかお会いできない同学年の保護者の方々と情報交換ができ、有り難かったです。

Q 今後の教育後援会でこんなことができたらいいなということがありますか？

- A
- ・保護者間で情報交換できる場が作れたら良いなと思います。
 - ・大学の保護者ともなると、講演会等に行く機会もありますが、イベント的な講演などがあったら良いかなと思います。



理事会の様子（オンライン参加も可能）



今年度の理事会メンバーです